

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 11 月 14 日 (2019.11.14)

【公表番号】特表 2018-537146 (P2018-537146A)

【公表日】平成 30 年 12 月 20 日 (2018.12.20)

【年通号数】公開・登録公報 2018-049

【出願番号】特願 2018-517566 (P2018-517566)

【国際特許分類】

A 6 1 N 1/05 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 1/05

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 4 日 (2019.10.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エレクトロポレーションデバイスであって、  
内視鏡を受け取るように構成された、内部を通るルーメンを画定するシャフトと、  
前記シャフトの遠位部分の周りに取り付けられ、長手方向の長さが 5 乃至 20 cm であるバルーンと、  
前記バルーンの外面に配置された 1 つ以上の電極とを含むデバイス。

【請求項 2】

請求項 1 において、前記バルーンの少なくとも一部は、導電性液体を通過させる多孔質材料を有するデバイス。

【請求項 3】

請求項 1 において、前記バルーンは、導電性液体を通過させる多孔質材料から形成されているデバイス。

【請求項 4】

請求項 1 において、前記 1 つ以上の電極は、2 つ以上の一連の電極を有するデバイス。

【請求項 5】

請求項 4 において、前記一連の電極のそれぞれは、前記バルーンの前記長手方向の長さに沿って直線的に配列されているデバイス。

【請求項 6】

請求項 1 において、前記バルーンは、  
近位端部と、  
遠位端部と、  
前記近位端部及び前記遠位端部の間の中間部と、を有し、  
前記 1 つ以上の電極が前記中間部に配置されるデバイス。

【請求項 7】

請求項 6 において、前記 1 つ以上の電極は、前記中間部にのみ配置されるデバイス。

【請求項 8】

請求項 1 において、前記 1 つ以上の電極は、双極電極を有するデバイス。

【請求項 9】

エレクトロポレーションデバイスであって、

内部を通る第 1 のルーメンを画定するシャフトと、  
前記シャフトの遠位部分の周りに取り付けられた近位バルーンと、  
前記近位バルーンの遠位に延び、前記第 1 のルーメンと連通する中間部ルーメンを画定  
し、エレクトロポレーションエネルギーを提供するように構成された 1 つ以上の電極を含み  
、壁を貫通し、前記中間部ルーメンと連通する 1 つ以上のアパーチャを含み、長手方向に  
収縮された状態と、前記長手方向に収縮された状態よりも長い長手方向に拡張された状態  
とを有する中間部と、

前記中間部の遠位に延びる遠位バルーンとを備えるデバイス。

【請求項 10】

請求項 9 において、前記遠位バルーンは、前記中間部ルーメンと連通する、内部を通る  
遠位バルーンルーメンを有し、

任意的に、前記遠位バルーンルーメンは、前記遠位バルーンが周りに取り付けられてい  
る遠位シャフトによって画定されているデバイス。

【請求項 11】

請求項 9 において、前記シャフトは、前記近位バルーンと連通する近位バルーンインフ  
レーションルーメンを画定するデバイス。

【請求項 12】

請求項 9 において、前記シャフト及び前記中間部は、前記遠位バルーンと連通する遠位  
バルーンインフレーションルーメンを画定する画定するデバイス。

【請求項 13】

請求項 9 において、前記中間部は、前記長手方向に収縮された状態と、前記長手方向に  
拡張された状態との間で前記中間部の構成を変更させるアコーディオン構成を有するデバ  
イス。

【請求項 14】

請求項 9 において、前記第 1 のルーメン及び前記中間部ルーメンは、内視鏡を受け取り  
、又は内視鏡の作業チャネルを通るデバイス。

【請求項 15】

請求項 9 において、前記中間部が完全に拡張したときの前記長手方向の長さが 1.5 乃至  
3.5 cm であるデバイス。

【請求項 16】

請求項 1 において、前記バルーンの少なくとも一部が円筒形であるデバイス。

【請求項 17】

請求項 1 において、前記バルーンは、近位端部と、遠位端部と、前記近位端部及び前記  
遠位端部の間の中間部と、を有し、前記中間部が円筒形であるデバイス。